

# 京都工芸繊維大学工芸科学部の設置計画の概要

						事前相談事項	教員審査の省略	認可又は届出				
名称	京 都 工 芸 繊 維 大 学				設置者	国立大学法人 京都工芸繊維大学				開設予定年度	平成18年度	
位置	京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地						計画の種類	大学の学部設置				
計 画 の 概 要	既 設 学 部 等						新 規 学 部 等					
	研究科・専攻名	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	研究科等の種類	研究科・専攻名	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	研究科等の種類
概 要	工学部 (昼間コース)						工芸科学部 (昼間コース)					
	機械システム工学科	83		332	学士(工学)	工学関係	応用生物学課程	50		200	学士(農学)	農学関係
	電子情報工学科	112		448	学士(工学)	工学関係	生体分子工学課程	50		200	学士(工学)	工学関係
	物質工学科	83		332	学士(工学)	工学関係	高分子機能工学課程	50		200	学士(工学)	工学関係
	造形工学科	107		428	学士(工学)	工学関係	物質工学課程	65		260	学士(工学)	工学関係
	学部共通		10	20			電子システム工学課程	60		240	学士(工学)	工学関係
	(夜間主コース)						(夜間主コース)					
	機械システム工学科	25	5	110	学士(工学)	工学関係	機械システム工学課程	85		340	学士(工学)	工学関係
	電子情報工学科	30	5	130	学士(工学)	工学関係	デザイン経営工学課程 (昼夜開講)	40		160	学士(工学)	工学関係
	物質工学科	20	5	90	学士(工学)	工学関係	造形工学課程 (昼間コース)	125		500	学士(工学)	工学関係
	造形工学科	10	5	50	学士(工学)	工学関係	学部共通 (夜間主コース)		45	90	学士(工学)	工学関係
	計	470	30	1940			先端科学技術課程 計	40	5	170	学士(工学)	工学関係
	繊維学部 (昼間コース)						(夜間主コース)					
	応用生物学科	57		228	学士(農学)	農学関係		625	50	2600		
	高分子学科	90		360	学士(工学)	工学関係						
	デザイン経営工学科	28		112	学士(工学)	工学関係						
	学部共通		10	20								
	(夜間主コース)						(夜間主コース)					
	応用生物学科	20		80	学士(農学)	農学関係						
	高分子学科	15		60	学士(工学)	工学関係						
デザイン経営工学科	10		40	学士(工学)	工学関係							
学部共通		10	20									
計	220	20	920									
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先端科学技術課程は造形工学課程を除く学部共通。</li> <li>・ 平成18年4月から学生募集を停止し、在学生の卒業を待って廃止。</li> </ul>											
	工学部											
	(昼間コース)											
	機械システム工学科	( 83名)										
	電子情報工学科	( 112名)										
	物質工学科	( 83名)										
	造形工学科	( 107名)										
	(夜間主コース)											
	機械システム工学科	( 25名)										
	電子情報工学科	( 30名)										
	物質工学科	( 20名)										
	造形工学科	( 10名)										
	繊維学部											
	(昼間コース)											
	応用生物学科	( 57名)										
高分子学科	( 90名)											
デザイン経営工学科	( 28名)											
(夜間主コース)												
応用生物学科	( 20名)											
高分子学科	( 15名)											
デザイン経営工学科	( 10名)											

教 員 組 織 （ 専 任 の み）	既設学部等	現 員		新規学部等	計 画		そ の 他	
		専任教員数	うち教授		専任教員数	うち教授		
			人		人	人		
	工芸学部			工芸科学部				
	機械システム工学科	3	1	応用生物学課程	2	1	応用生物学科から	2
	電子情報工学科	4	2	【 14 】	【 7 】			
	物質工学科	3	1	生体分子工学課程	1	7	高分子学科から	1
	造形工学科	3	1	【 8 】	【 4 】			
	繊維学部			高分子機能工学課程	1	9	高分子学科から	1
	応用生物学科	2	1	【 8 】	【 4 】			
	高分子学科	3	1	物質工学課程	2	1	物質工学科から	2
	デザイン経営工学科	1	6	【 8 】	【 4 】			
				電子システム工学課程	1	1	電子情報工学科から	1
				【 8 】	【 4 】			
				情報工学課程	1	9	電子情報工学科から	1
				【 8 】	【 4 】			
				機械システム工学課程	2	9	機械システム工学科から	2
				【 9 】	【 5 】			
				デザイン経営工学課程	9	5	デザイン経営工学科から	9
				【 8 】	【 4 】			
				造形工学課程	4	1	新規採用	7
				【 10 】	【 5 】			
				先端科学技術課程	8	5	造形工学科から	3
				【 8 】	【 4 】			
							応用生物学科から	2
							高分子学科から	2
							物質工学科から	1
							電子情報工学科から	2
							機械システム工学科から	1
	計	2	1	計	2	9		
		1	5		0	9		

既設学部等の概要（学年進行終了時の状況）	研究科・専攻名	入学定員	編入入学定員	収容定員	学位又は称号	研究科等の種類	教員数		備考
							専任教員数	うち教授	
		人	人	人			人	人	
	工芸科学部 (昼間コース)								
	応用生物学課程	50		200	学士(農学)	農学関係	26	14	
	生体分子工学課程	50		200	学士(工学)	工学関係	14	7	
	高分子機能工学課程	50		200	学士(工学)	工学関係	18	9	
	物質工学課程	65		260	学士(工学)	工学関係	22	11	
	電子システム工学課程	60		240	学士(工学)	工学関係	19	11	
	情報工学課程	60		240	学士(工学)	工学関係	18	9	
	機械システム工学課程	85		340	学士(工学)	工学関係	25	9	
	デザイン経営工学課程 (昼夜開講)	40		160	学士(工学)	工学関係	9	5	
	造形工学課程 (昼間コース)	125		500	学士(工学)	工学関係	41	19	
	学部共通 (夜間主コース)		45	90	学士(工学)	工学関係			
	先端科学技術課程	40	5	170	学士(工学)	工学関係	8	5	
	計	625	50	2600			200	99	

校地	専用	190,101㎡	共用	㎡	共用する他の学校等の専用	㎡	合計	190,101㎡ 【26,000】	(共用する学校の名称)
校舎	専用	95,390㎡	共用	㎡	共用する他の学校等の専用	㎡	合計	95,390㎡ 【32,065】	

当該設置に係る決議等	平成17年 6月20日 (決議・決議予定)	役員会決議	平成17年 6月20日 (決議・決議予定)	教育研究評議会決議
------------	--------------------------	-------	--------------------------	-----------

設置の趣旨等	<p>設置の趣旨及び必要性</p> <p>(a) 教育研究上の理念、目的</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>幅広い教養と高い倫理性を有し、自らの構想力と遂行力によって21世紀の産業、社会、文化に貢献できる工科大専門技術者を養成することを目的とする。</li> <li>現在は、学部・学科と教育課程があまりにも一体化しているために社会の変化に柔軟に対応するのが困難な状況にある。このような硬直化した現状を打破し、教育を革新していくため、課程(プログラム)中心の教育へ移行する。</li> <li>すなわち、学部・学科の障壁を除き、学部・学科制にとらわれない課程制に再編成し、教育プログラムに応じて教員が相互に連携して教育にあたり、教育内容、教育指導を豊富化して教育の充実を図るとともに、科学の進歩や社会の変化に柔軟に対応できる高度で多様な教育を実現する。</li> <li>また、各学科に設置されていた夜間主コースは、これを集約して、バイオテクノロジー、ナノマテリアル、ナノテクノロジー、インフォメーションテクノロジーといった21世紀の社会の発展を目指す重点領域を念頭に置いた先端科学技術課程(夜間主コース)に再編し、密度の高い少人数教育を行う。</li> </ol> <p>(b) どのような人材を養成するのか(卒業後の進路をどう考えるのか)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>応用生物学課程は、生物学と生化学を基礎として生命現象を解析し、生命、生物資源、地球環境に関わるバイオテクノロジーを的確に活用できる専門技術者。卒業後は、バイオ系産業や大学院に進学して次世代型のゼネラル・バイオテクノロジストとしての活躍が期待される。</li> <li>生体分子工学課程は、生体関連物質の化学と工学に関して十分な基礎知識と応用能力を身につけ、将来の技術革新に対応できる専門技術者。卒業後は、医薬、医用工学、化学、製造などの幅広い産業分野において将来の技術革新に対応できる人材として活躍が期待される。</li> <li>高分子機能工学課程は、機能性物質や高分子機能工学に関して十分な基礎知識と応用能力、将来の技術革新に対応できる専門技術者。卒業後は、化学工業や製造業などにおいて活躍が期待される。</li> <li>物質工学課程は、環境・資源・エネルギーなどを広い立場から考え、地球環境、人類社会と調和した科学、技術の発展に貢献する専門技術者。卒業後は、民間企業、官公庁等での活躍が期待される。</li> <li>電子システム工学課程は、電子、通信、電気、制御工学の基礎知識・技術を修め、素養と応用力・実践力の基礎を身につけた専門技術者。卒業後は、家電産業、通信制御などの分野において活躍が期待される。</li> <li>情報工学課程は、情報、通信、ネットワーク、システム制御分野の基礎知識・技術を修め、素養と応用力・実践力の基礎を身につけた専門技術者。卒業後は、IT産業において活躍が期待される。</li> <li>機械システム工学課程は、最先端の科学・技術を用いて、新しい機械の開発やシステムの構築ができる専門技術者。卒業後は、車、車両、自動化などの製造業や住宅産業において活躍が期待される。</li> <li>デザイン経営工学課程は、ものづくりを企画・立案し、マネジメントできるリーダーシップを持った人材。商品開発の段階(着想、商品化、普及過程)毎に必要な能力を有する人材。卒業後は、幅広い企業においてコーポレートデザインやマネジメント部門においての活躍が期待される。</li> <li>造形工学課程は、造形制作・製作に関わる基本工学技術を踏まえ、生活環境、文化の充実に寄与できる専門技術者、デザイナー。卒業後は、建設業、住宅産業、官公庁などにおいて建築家、あるいはデザイナーとしての活躍が期待される。</li> <li>先端科学技術課程は、基本工学技術とバイオテクノロジー、ナノマテリアル、ナノテクノロジー、インフォメーションテクノロジーの各工学先端分野に関するいずれかの知識を踏まえ、社会に貢献できる人材。卒業後は、先端産業における分析技術者やシステムエンジニアとしての活躍が期待される。</li> <li>上述の工科大専門技術者のほか、大学院へ進学して高度専門技術者あるいは研究者を目指す人材を育成する。</li> </ol> <p>教育課程編成の考え方及び特色</p> <p>(a) 教育課程編成の考え方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>幅広い教養と基礎・基本を重視した専門教育を充実するとともに、専門に関する高い能力を涵養するための教育課程を編成する。</li> <li>学修に柔軟性をもたせ、学生が主体的に学び自らが知識体系を構築することを目的に、授業科目を必修科目、選択科目と科目区分の範囲内か</li> </ol>
--------	--

ら一定の単位を履修する選択必修科目に区分する。

- 3 卒業に必要な単位を130単位(先端科学技術課程を除く)と設定し、授業科目は、学部共通科目である「言語教育科目」と「人間教養科目」及び課程毎に開設する「専門教育科目」と「卒業研究」に区分する。
  - 4 「言語教育科目」は、専門知識を習得する手段として貢献すると同時に、国際化の進展に対応できる実践的な語学力を身に付けることを目的としている。さらに、それぞれの文化圏についての幅広い知識を獲得するために「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」を開講する。「英語」の一部必修科目を含め言語教育科目全体から10単位以上の修得を義務付ける。
  - 5 「人間教養科目」は、専門的知識を真に生かすために、幅広い視野をひらくことを目的とし、「京の伝統・芸術と先端科学・技術」、「科学技術と人間環境・倫理」、「人と社会」、「こころと歴史」などの科目群を設け、一部選択必修科目を含む16単位以上の修得を義務付ける。
  - 6 各課程に開設する「専門教育科目」は、各課程の専門教育の学修に必要な専門基礎科目(数学、物理学、化学、生物学、情報など)と課程毎の専門性を身に付ける課程専門科目で構成し、各授業科目を必修科目、選択必修科目及び選択科目に区分し、課程毎の卒業要件に従い90単位以上の修得を義務付ける。
  - 7 「卒業研究」は、必修科目とし、既に学んだ知識を基礎にして自ら課題を設定・解決し、その成果を卒業論文として完成させるよう指導する。また、大学院へ進学する場合には、修士教育への準備教育と位置づける。
  - 8 夜間主コースの「先端科学技術課程」では、卒業に必要な単位を124単位と設定し、授業科目は、「言語教育科目」、「人間教養科目」、「専門教育科目」に区分する。
    - 「言語教育科目」は、「英語」10科目を開講し、「英語 A」と「英語 B」を含む6単位以上の修得を義務付ける。
    - 「人間教養科目」は、「産業と人間」、「社会と歴史」、「科学と生命」、「ものづくりと企業戦略」の科目群を設け、一部選択必修科目を含む24単位以上の取得を義務付ける。
    - 「専門教育科目」のうち、専門教育の学修に必要な専門基礎科目(数学、物理学、化学、生物学、情報など)を1、2年次に配当する。また、2年次には、「生命物質科学技術コース」または「設計工学技術コース」のいずれかを選択し、そのコースに沿って配置されたコース専門科目を履修する。
    - さらに、3年次からは「生命物質科学技術コース」にバイオテクノロジーとナノマテリアル、「設計工学技術コース」にナノテクノロジーとインフォメーションテクノロジーの各工学先端分野に沿って配置された専門科目を履修し、一部の必修科目、選択必修科目を含め「専門教育科目」全体から各自の専門指向性と進路設計に基づき80単位以上の修得を義務付ける。
- (b) 教育課程編成の特色
- 1 本学の学風を生かした個性的な人間教養科目群を設けバランス良く履修させることで、幅広い教養と高い倫理性を備えた人材の育成を図っている。
  - 2 学年進行とともに専門性を高め、幅広い教養と高い専門性が身に付くよう授業科目をくさび型に配置している。
  - 3 上記は、学部・学科の障壁をなくし、全学のリソースを動員することにより、真に課程の実質化、高効率化が図られるものである。